

第97回 ふじのくに防災学講座

- 日 時 平成 29 年 5 月 13 日 (土)
※開会式 10時00分～10時30分
講演会 10時30分～12時00分
- 会 場 静岡県地震防災センター (静岡市葵区駒形通5丁目9-1)

テーマ 『地域の防災力を高める』 ～最近の災害取材から～

講 師 NHK解説委員 山崎 登 氏

(講演概要)

昨年4月の熊本地震では震度7の猛烈な揺れが2回も観測され、住宅などの建物が壊れて大きな被害ができました。また8月の台風10号は観測史上初めて東北地方の太平洋側に上陸し、高齢者施設などで多くの犠牲者をだしました。

このところ全国各地で大きな自然災害が相次いでいますが、現場を取材すると、被害を減らすためには地域の防災力を高めておくことが重要だとわかります。

専門家が南海トラフの巨大地震の切迫性を指摘し、かつてはなかったような豪雨の危険性が高まっているなか、みなさんと一緒に求められる防災対策を考えたいと思います。



地域の防災力を高める ～最近の災害取材から～

NHK解説委員 山崎 登



阪神・淡路大震災(1995年)

東日本大震災(2011年)



2017.5.13 1

わたしの災害・防災取材

取材した主な災害や火災

- ① 長野県西部地震(1984年9月)
- ② イラン・マンジュール地震(1990年6月)
- ③ 阪神・淡路大震災(1995年1月)
- ④ 台湾集集地震(1999年9月)
- ⑤ 有珠山・三宅島噴火(2000年3月・6月)
- ⑥ 歌舞伎町雑居ビル火災(2001年9月)
- ⑦ 韓国地下鉄火災(2003年2月)
- ⑧ 新潟県中越地震(2004年10月)
- ⑨ ハリケーン「カトリーナ」災害(2005年8月)
- ⑩ 東日本大震災(2011年3月)
- ⑪ 熊本地震(2016年4月)

安全・安心な社会が前提

停電する地域(イメージ) 【具体的な停電地域については別紙による】
供給の再開を迅速に行うため、グループを分断化



平成28年 熊本地震



2日間に震度7が2回は初めて

熊本地震の犠牲者

熊本地震の被害 亡くなった原因



倒壊した住宅の特徴

熊本地震の被害 壊れた住宅(益城町)



住宅の耐震化と家具の固定

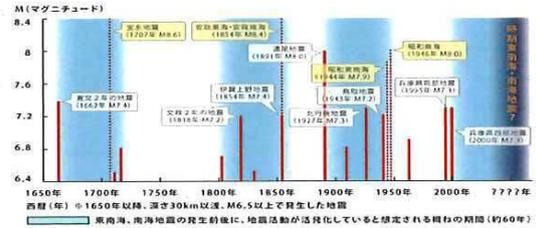


阪神・淡路大震災をどう伝えたか

□ 1995年1月17日 午前5時46分

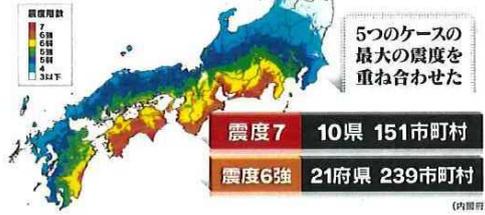
地震調査研究推進本部 今後30年の発生確率 南海トラフ全域 M8~M9 60%~70%

西日本では、東南海、南海地震の前後に地震活動が活発化する傾向が見られる



南海トラフの巨大地震

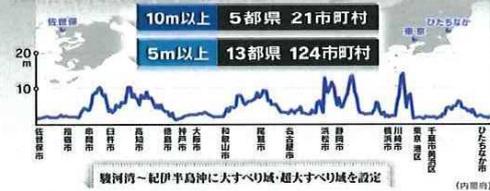
震度の最大値の分布図



内閣府の被害想定 最大で 死者 32万3000人
避難者 950万人(1週間後)

誰かがなんとかしてくれる災害ではない

各市町村の津波高(平均値)



□ 避難者数
阪神大震災 32万人 東日本大震災 38万人

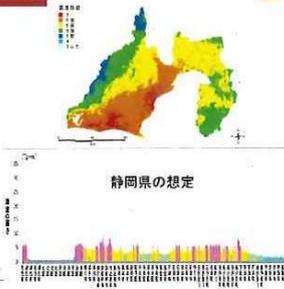
地域を知ることが防災の始まり

I・震源からの距離

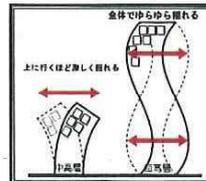
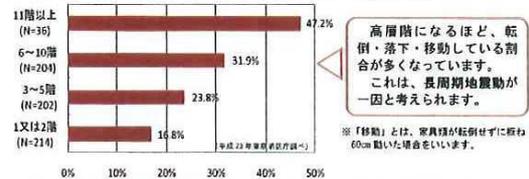
II・地盤

埋め立て地、
河川の河口付近、
盛り土の造成地...

III・建物の構造や高さ



東日本大震災 都内における階層別の家具類の転倒・落下・移動発生割合



地域を知るのに努力のいる時代



便利な社会の落とし穴

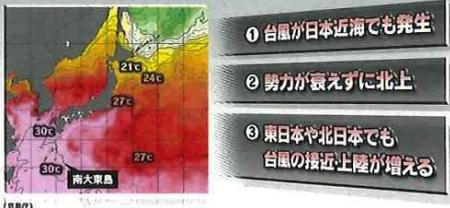
2016年 台風10号



- 岩手県大船渡付近に上陸
(2016年8月30日午後6時頃)
- 昭和26年以來の観測史上初

台風は暖かい海がエネルギー源

日本付近の海面水温(8月29日)



地球温暖化 極端現象の増加 影響は長く続く

- ① 台風が日本近海でも発生
- ② 勢力が衰えずに北上
- ③ 東日本や北日本でも 台風の接近上陸が増える

岩手県岩泉町のグループホーム 9人死亡



高齢者グループホーム
「楽ん楽ん(らんらん)」
(岩手県岩泉町)

「避難準備情報を知らなかった」(施設管理者)

風水害は情報で被害が減らせる

避難準備情報 平成16年の新潟・福島豪雨 犠牲者の8割が高齢者
⇒ 高齢者など避難に時間のかかる人は早めの避難を
(平成17年に新たにできた情報)



避難につながる気象情報

気象情報の流れ(大雨)

大雨注意報 半日から数時間前

大雨警報 2時間程前

- ▼ 記録的短時間大雨情報(数年に1度の雨)
- ▼ 土砂災害警戒情報
- ▼ 河川のはんらん情報(全国約200の河川)
- ▼ 竜巻注意情報

特別警報

知られていない気象情報

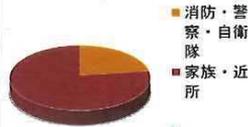


情報を防災に生かす

地域の力が被害を減らす

瓦礫の中からの救助
(阪神大震災)

自治体・消防団
地域の住民(自主防災組織)
企業(事業所)
病院・学校



防災対策は重層的に
防災対策は裏切らない

瓦礫の中から救出された人 3万5000人
消防・警察・自衛隊 8000人
家族・近所が救出 2万7000人
(京都大学 河田恵昭教授)

20

日本は災害の多い国

□ 国土は世界の0.3パーセント

大きな地震の20パーセント
世界の活火山の10パーセント
毎年3個の台風が上陸
梅雨・秋雨...

人は災害に対して無力ではない

□ ありがとうございました。